

# 人口動態統計等から見る盛岡圏域の状況

※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

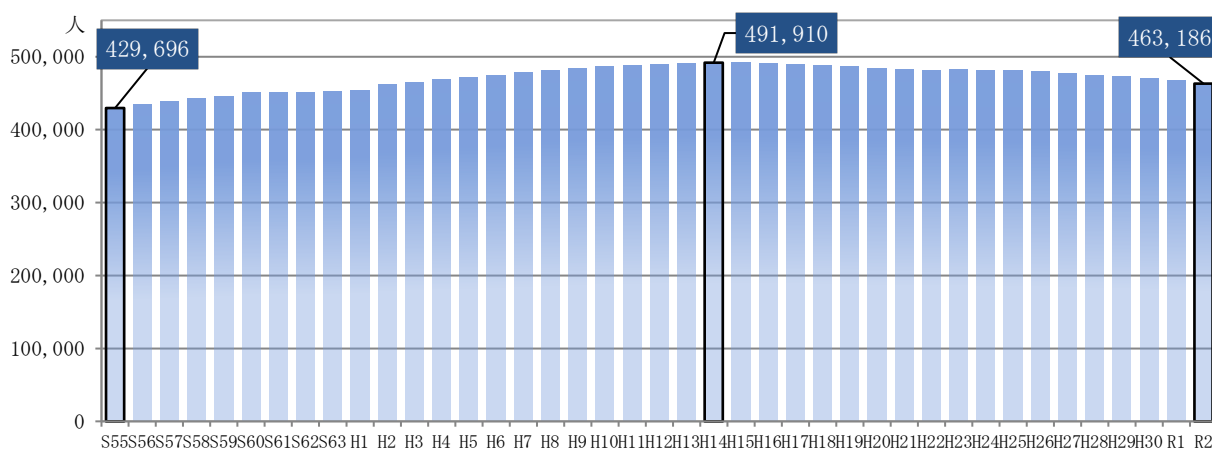
## I 人口の推移

### 1 総人口の推移

盛岡圏域の人口は、昭和55年(429,696人)から平成14年(491,910人)まで毎年増加していましたが、翌年から減少に転じています。令和2年には463,186人と、昭和55年からは約3万3千人増加していますが、ピークだった平成14年からはおよそ2万8千人減少しています(図1)。

なお、昭和55年との比較で人口が増加しているのは、県内9圏域の中で盛岡圏域のみです。

図1 盛岡圏域の総人口の推移

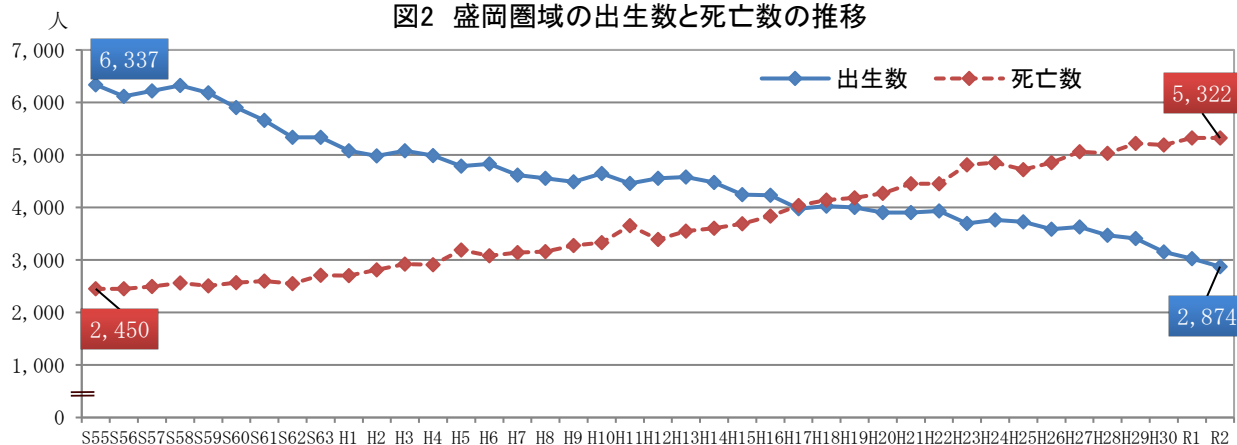


### 2 人口構成の推移

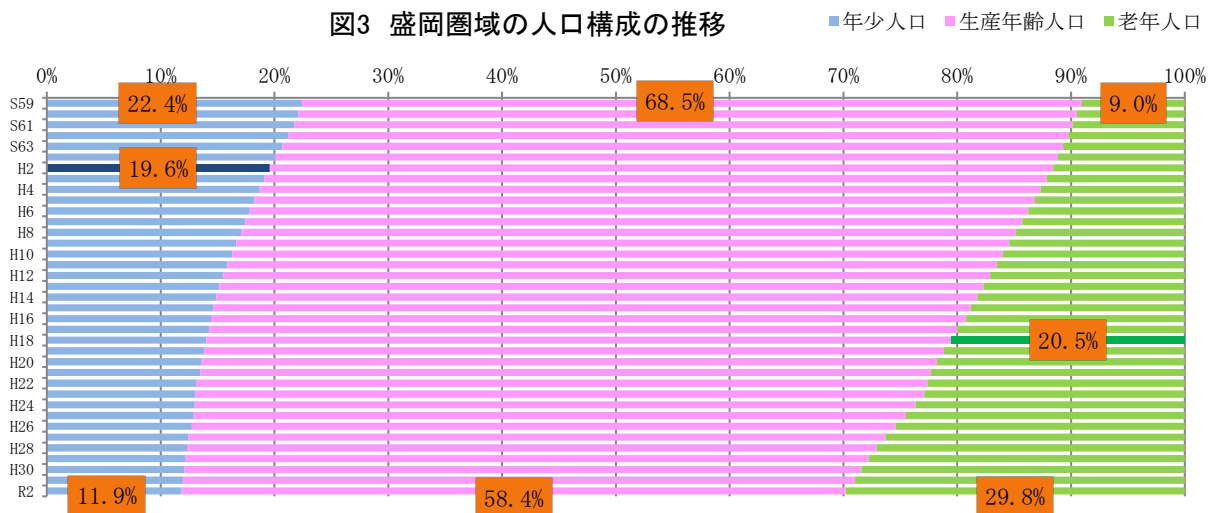
盛岡圏域の1年当たりの出生数は、昭和55年には6,337人でしたが、令和2年は2,874人と3,463人減少しました。一方、死亡数は、昭和55年の2,450人から、令和2年は5,322人と増加しています(図2)。

出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成17年にマイナスに転じ、その差は年々開いています。令和2年の自然増加数は2,448人減でした。

図2 盛岡圏域の出生数と死亡数の推移



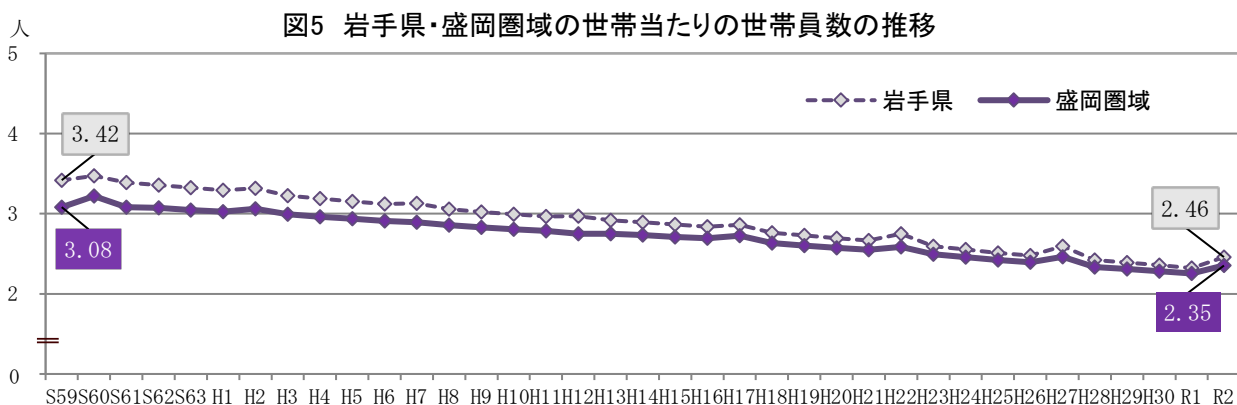
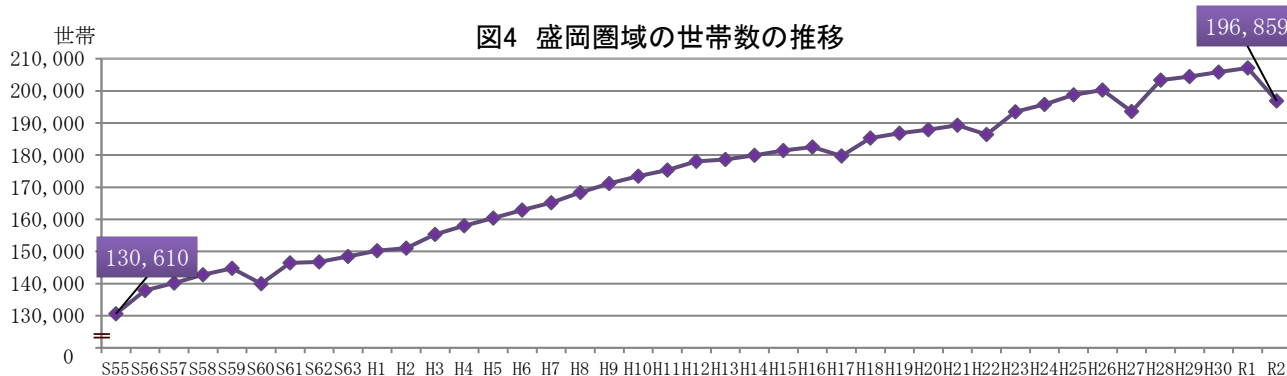
盛岡圏域の総人口に占める各区分の割合を昭和59年から経年的に見たものが「図3」です。年少人口は平成2年に19.6%となり、令和2年は11.9%まで低下しています。老年人口は平成18年に20.5%となり、令和2年は29.8%と4人に1人が65歳以上という状況です。なお、老年人口が20%台であるのは盛岡圏域のみで、他の圏域では30%を超えています。



### 3 世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

盛岡圏域の世帯数は、昭和55年の130,610世帯から増加傾向にあり、令和2年には196,859世帯となっています(図4)。総人口を世帯数で割った世帯当たりの世帯員数は、昭和59年の3.08人から令和2年は2.35人と減少傾向にあります(図5)。

なお、世帯数は、国勢調査年は国勢調査の数値、それ以外は住民基本台帳の数値となっています。

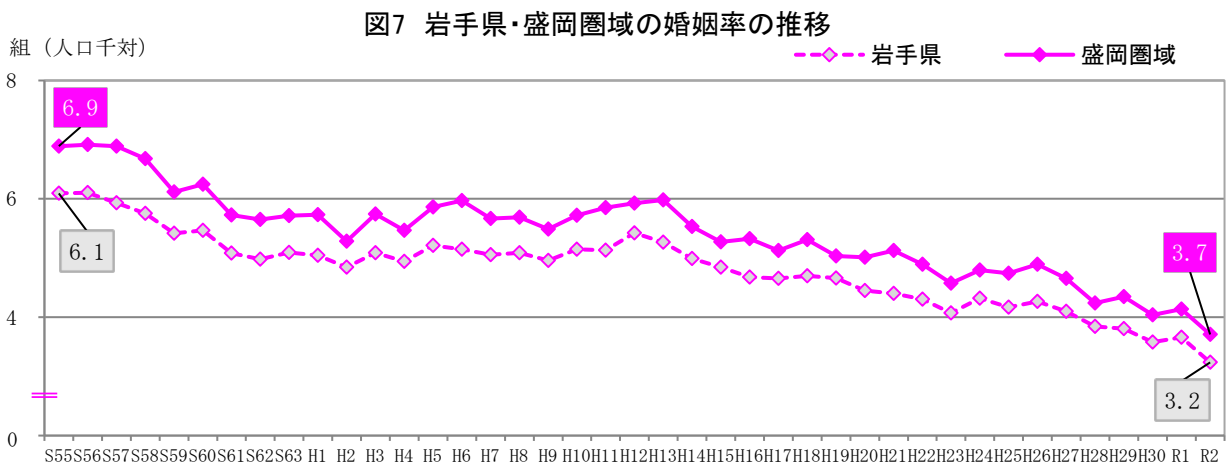
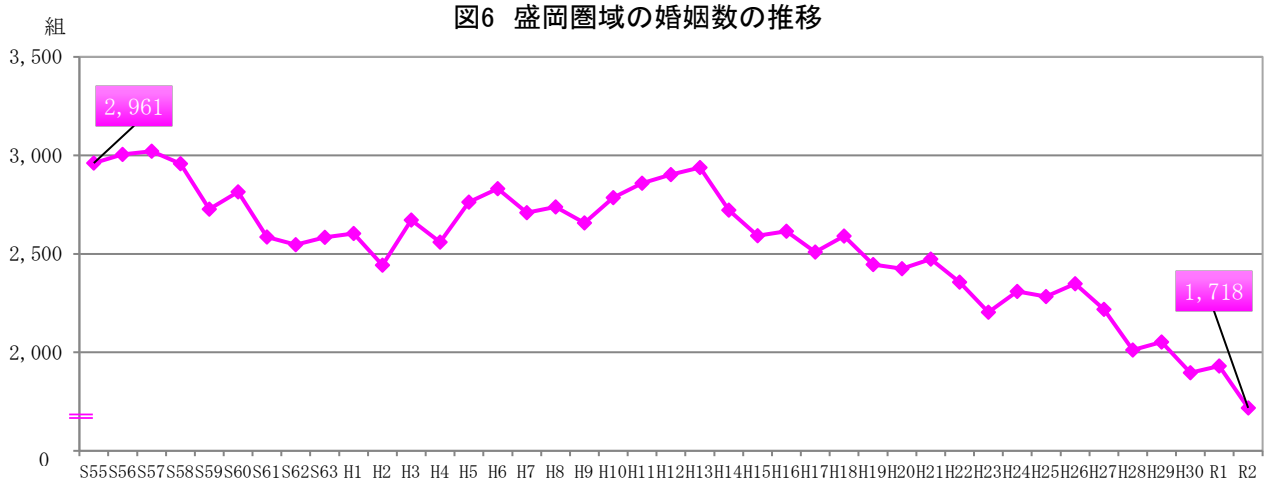


## II 婚姻及び離婚の推移

### 1 婚姻数及び婚姻率の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、盛岡圏域の婚姻数は昭和55年から平成18年までは2,500から3,000組の間で推移し、平成19年以降は2,500組以下で推移しています。令和2年は1,718組と最も低くなっています(図6)。

盛岡圏域の人口千人当たりの婚姻率は、昭和55年6.9から緩やかな低下傾向にあります。いずれの年次も岩手県全体より高い状況となっています(図7)。



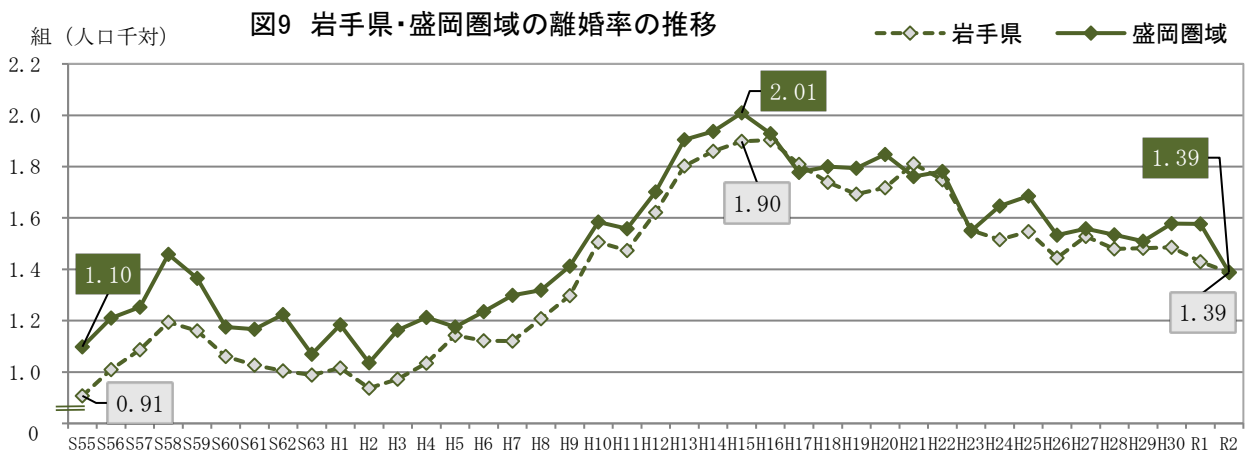
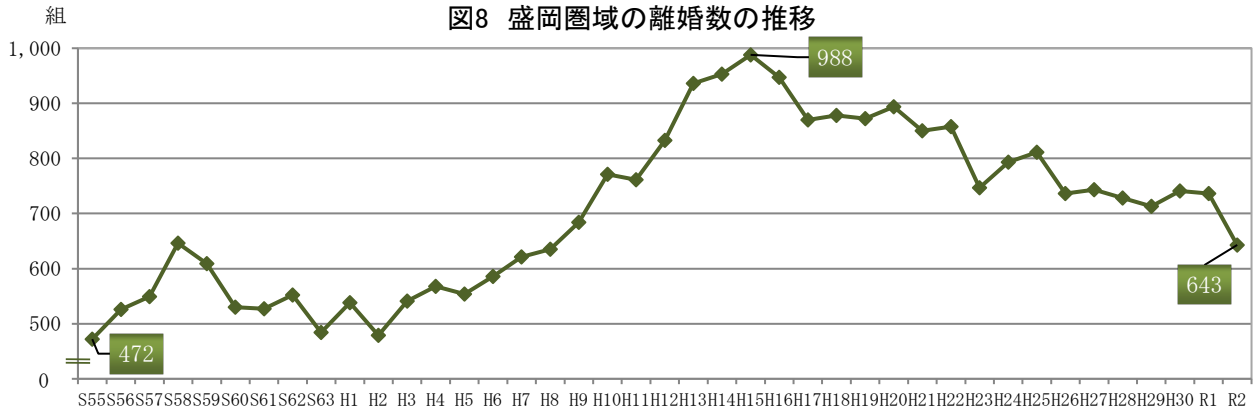
### 2 婚姻率の圏域別順位 (令和2年高率順)

	岩手県	1位	2位	3位		5位	6位		8位	9位
圏域名		盛岡	中部	胆江	釜石	宮古	両磐	気仙	久慈	二戸
婚姻率	3.2	3.7	3.4	3.1	3.1	2.9	2.8	2.8	2.3	1.9

### 3 離婚数及び離婚率の推移

盛岡圏域の離婚数は、昭和55年の472組から増加となり、平成15年の988組がピークとなっています。その後減少傾向となり、令和2年は643組と、平成15年より300組以上減少しています(図8)。

人口千人あたりの離婚率は、岩手県全体より高く推移しており、平成24年、25年、令和元年は僅かに差が広がりました(図9)。



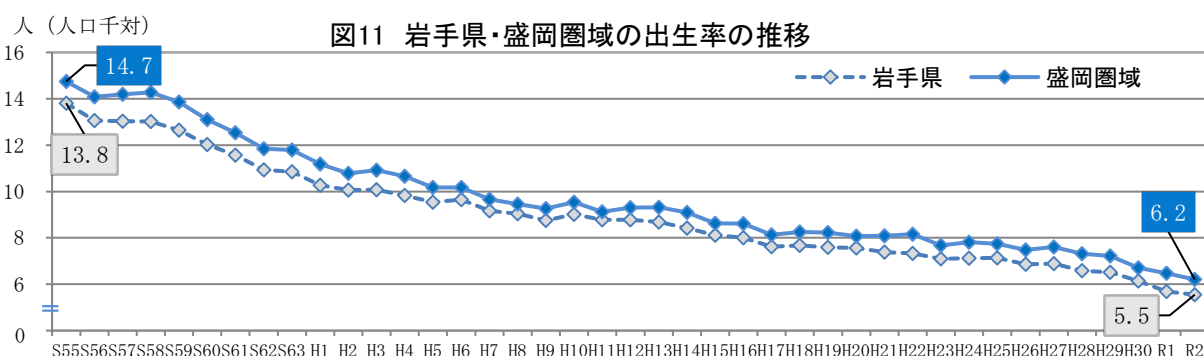
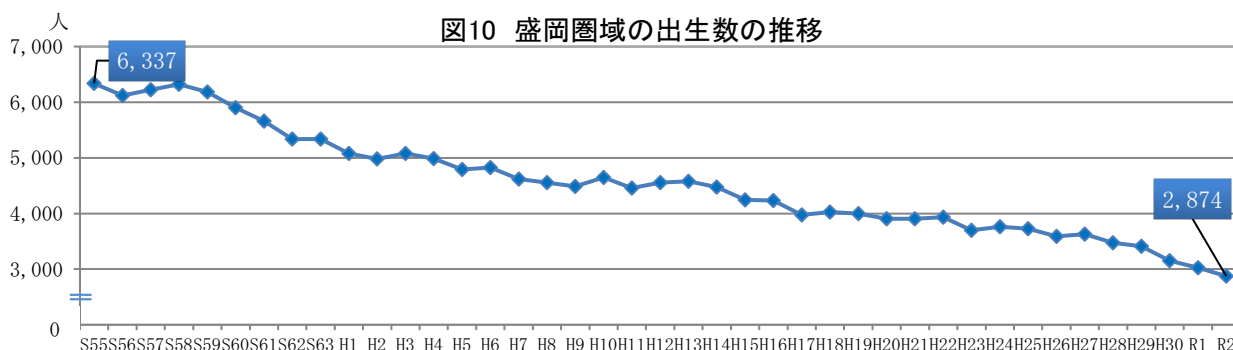
### 4 離婚率の圏域別順位 (令和2年低率順)

	岩手県	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
圏域名		釜石	久慈	二戸	気仙	両磐	盛岡	中部	宮古	胆江
離婚率	1.39	1.07	1.12	1.20	1.24	1.33	1.39	1.42	1.60	1.61

### Ⅲ 出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

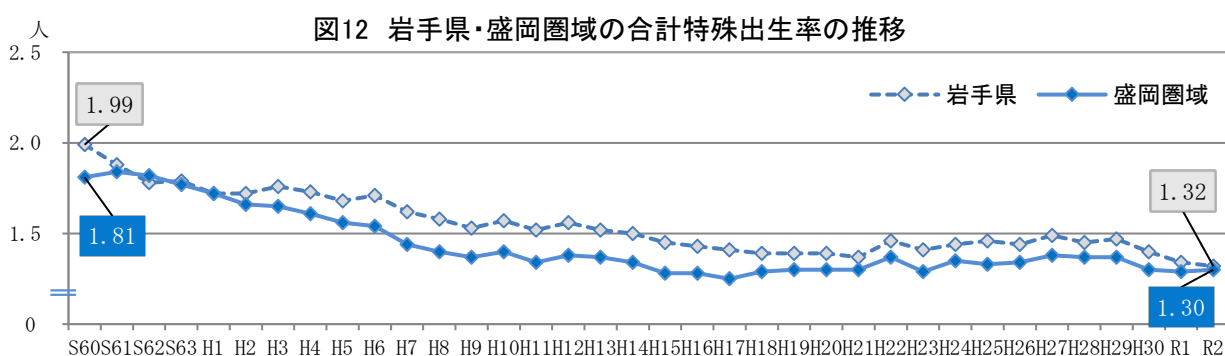
#### 1 出生数及び出生率の推移

盛岡圏域の出生数は、昭和55年に6,337人でしたが令和2年には2,874人と3,463人減少しています(図10)。人口千人当たりの出生率も、昭和55年の14.7から令和2年は6.2と低下していますが、いずれの年次も岩手県全体より高く推移しています(図11)。



#### 2 合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標の合計特殊出生率について、盛岡圏域は昭和60年の1.81から平成17年まで低下傾向となり、平成18年以降は僅かに上昇し横ばいで推移しています。令和2年は1.30でした。出生率は岩手県全体より高く推移していますが、合計特殊出生率はいずれの年次も岩手県全体より低く推移しています(図12)。

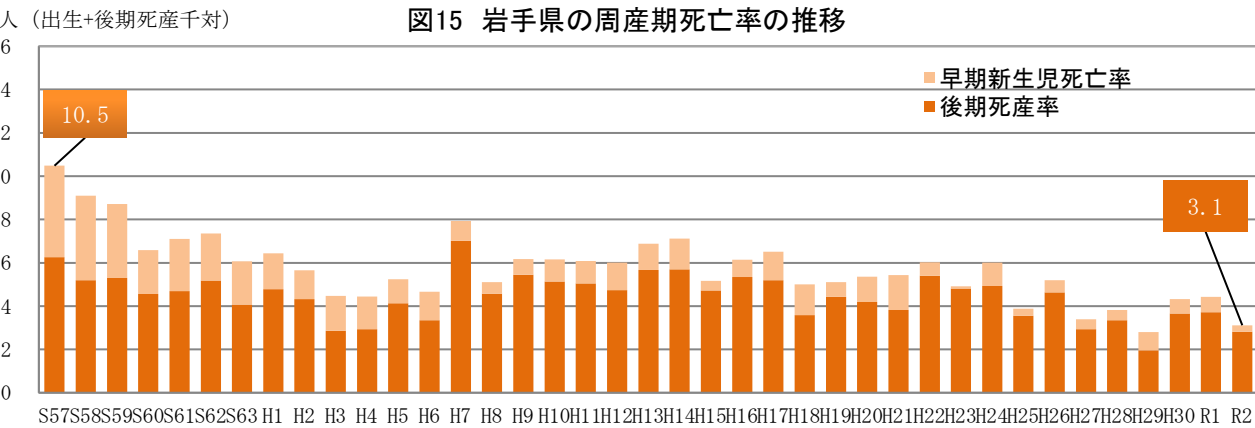
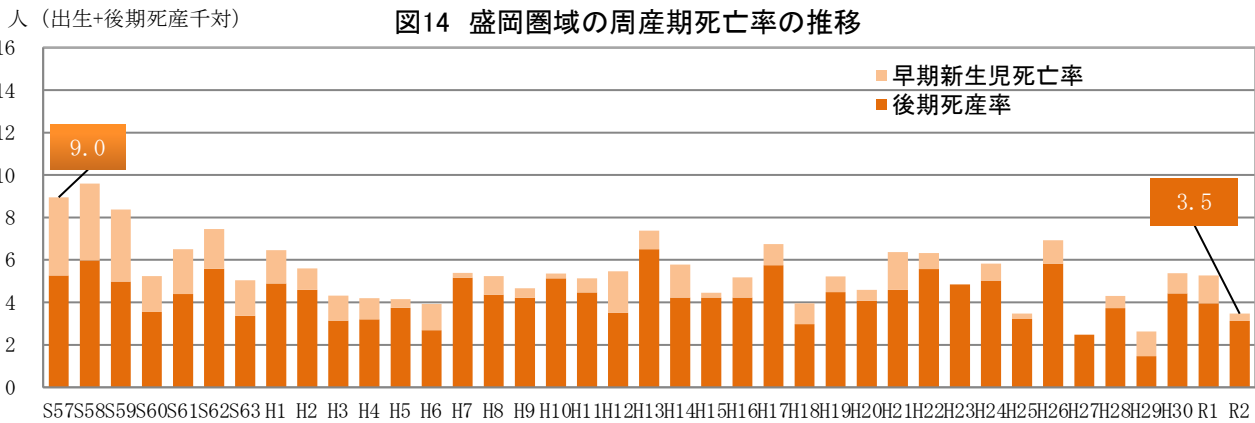
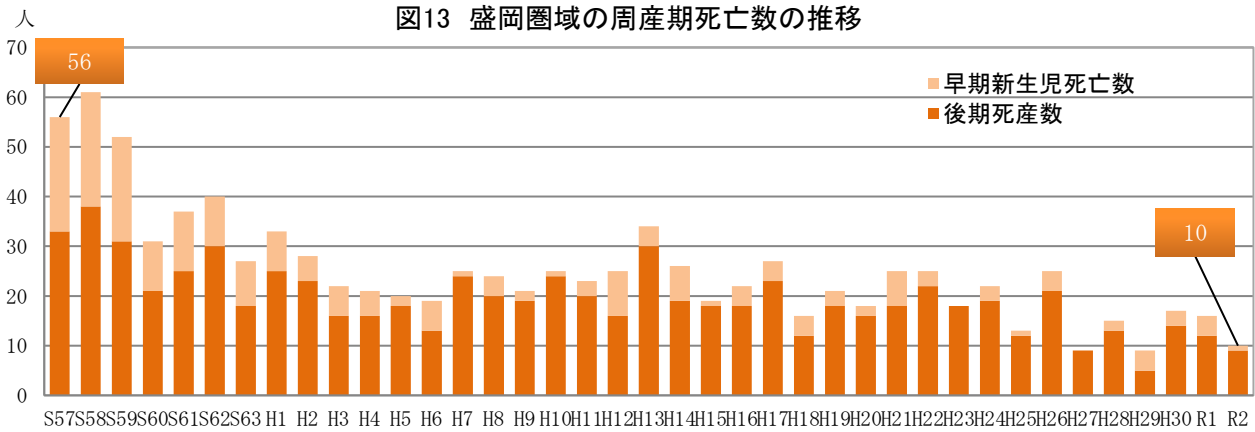


#### 3 合計特殊出生率の圏域別順位 (令和2年高率順)

	岩手県	1位	3位	4位	5位	6位	8位	9位		
圏域名		胆江	宮古	気仙	久慈	両磐	盛岡	中部	二戸	釜石
合計特殊出生率	1.32	1.44	1.44	1.36	1.35	1.34	1.30	1.30	1.19	1.17

#### 4 周産期死亡数・率の推移

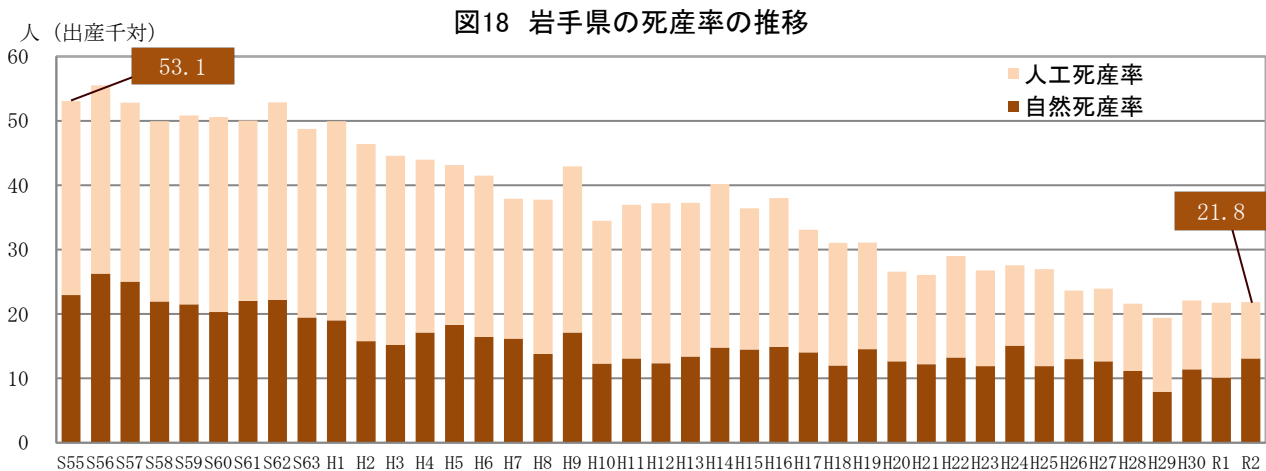
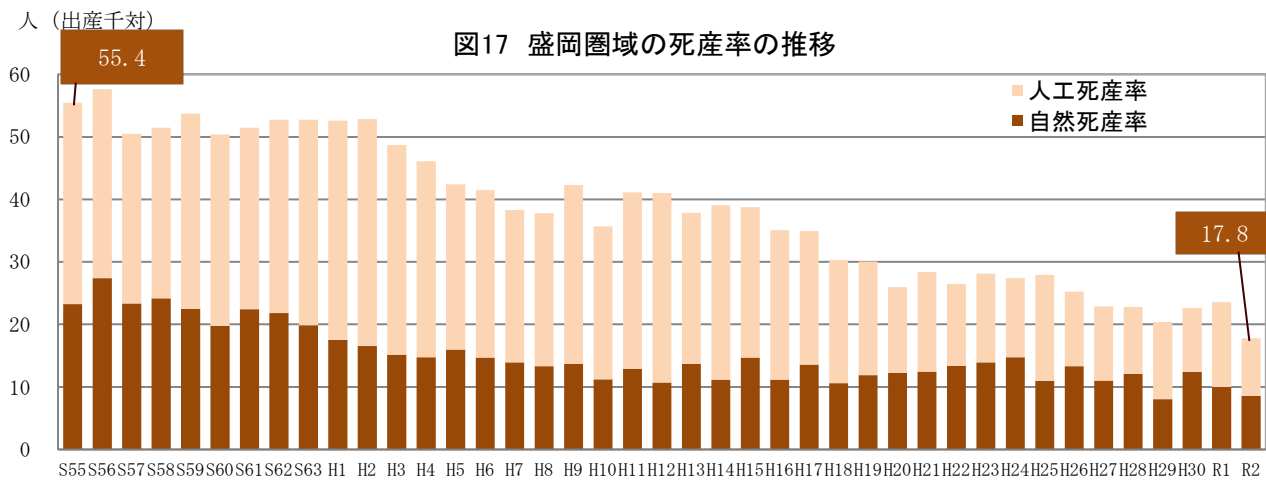
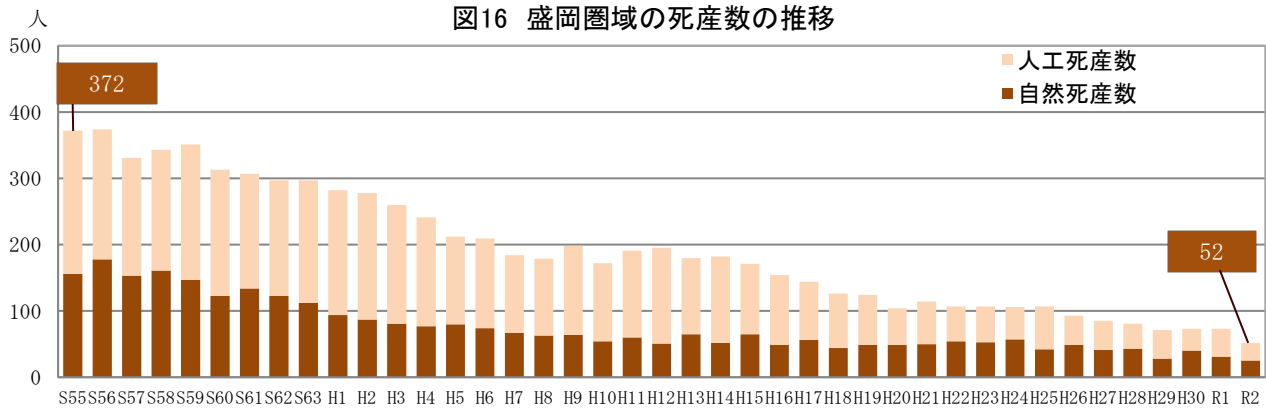
妊娠満22週以降の死産(以下、「後期死産」と言います。)及び出生後満7日未満の死亡(以下、「早期新生児死亡」と言います。)を周産期死亡と言います。周産期死亡率は、出産(出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計)千対の率です。盛岡圏域の周産期死亡数は、昭和57年の56人から平成14年以降には30人以下で推移し、令和2年は10人となりました(図13)。周産期死亡の内訳として、後期死産が多くを占めています。周産期死亡率も、昭和60年以降8.0以下で推移し、令和2年は3.5となりました。盛岡圏域は岩手県全体と比較して、低い数値で推移していますが、近年は上回る年次(平成26年、28年、30年、令和元年、令和2年)が見受けられます(図14、図15)。



## 5 死産数・率の推移

盛岡圏域の死産数は、昭和55年の372人から減少傾向にあり、平成26年以降は100人以下で推移し、令和2年は52人でした。その内訳では、人工死産数は平成17年から低下傾向にあり、近年は自然死産との差が小さくなっています(図16)。

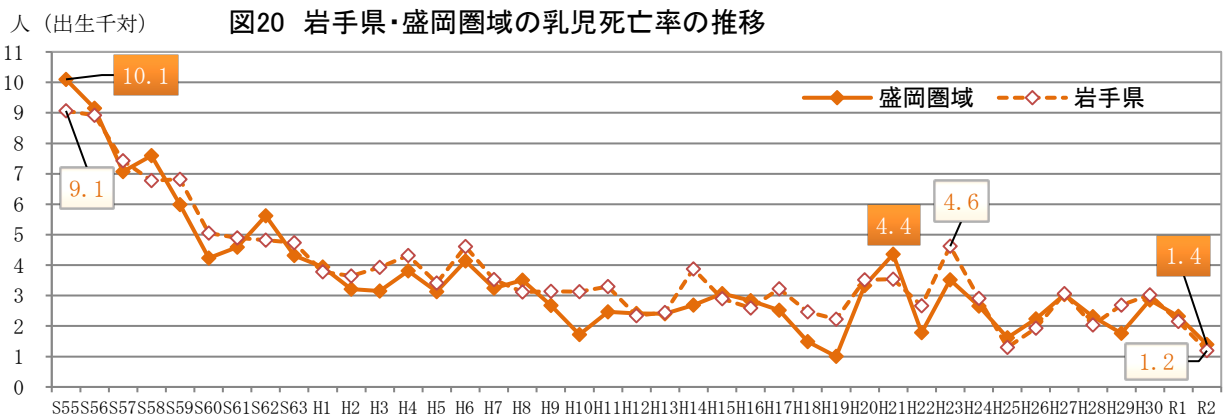
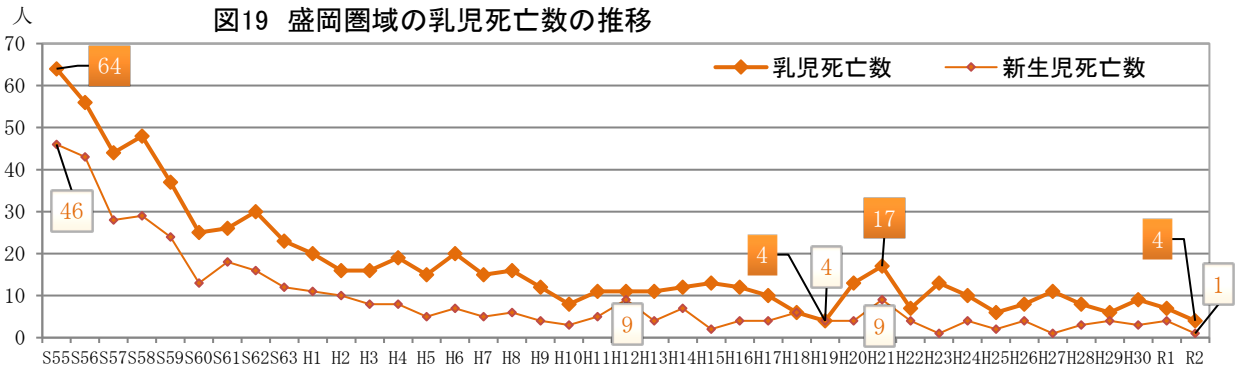
出産千人当たりの死産率も昭和55年から低下傾向にあり、令和2年は17.8でした。自然死産率は平成18年から緩やかな上昇傾向にあり、人工死産率は低下傾向でしたが、平成25年は自然死産率が低下し人工死産率が前年より4.3高い状況でした(図17)。概ね岩手県全体と同様の傾向で推移しています(図18)。



## 6 乳児死亡数・率の推移

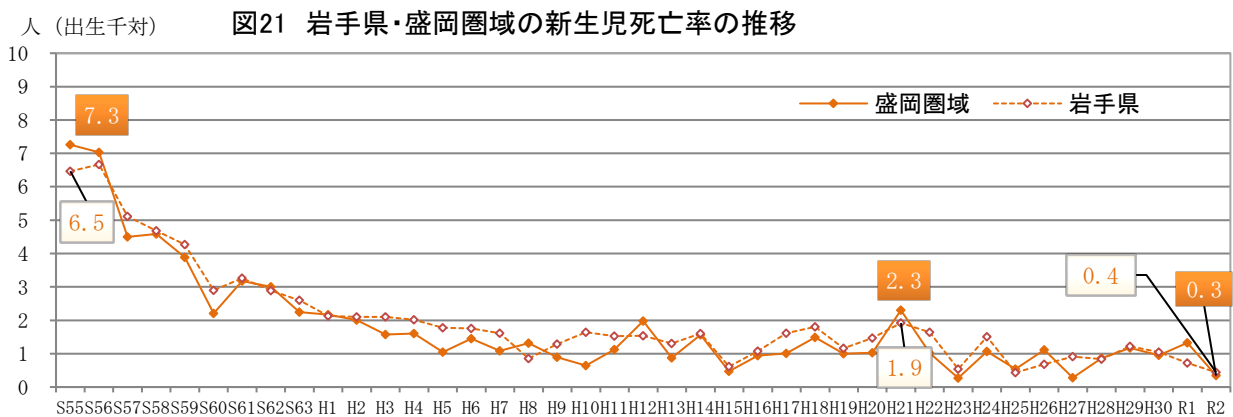
盛岡圏域の乳児死亡数は、昭和55年の64人から平成19年には4人にまで減少しましたが、平成21年に17人と増加しました。令和2年は4人となっています(図19)。乳児死亡数のうち、生後4週間未満(新生児)の死亡は昭和55年から平成5年頃まで減少傾向にあり、平成6年以降横ばいで推移しており、令和2年は1人でした。(図19)。

出生千人当たりの乳児死亡率も昭和56年以降低下傾向です。総じて岩手県全体より低い死亡率で推移していますが、近年では平成25年、26年、28年、令和元年、令和2年が岩手県全体より高くなっています(図20)。令和2年は1.4でした。



## 7 新生児死亡率の推移

出生千人当たりの新生児死亡率は、昭和55年の7.3から令和2年には0.3となっています(図21)。総じて岩手県全体より低く推移していますが、近年は平成21年、25年、26年、28年、令和元年が岩手県全体より高い死亡率となっています。



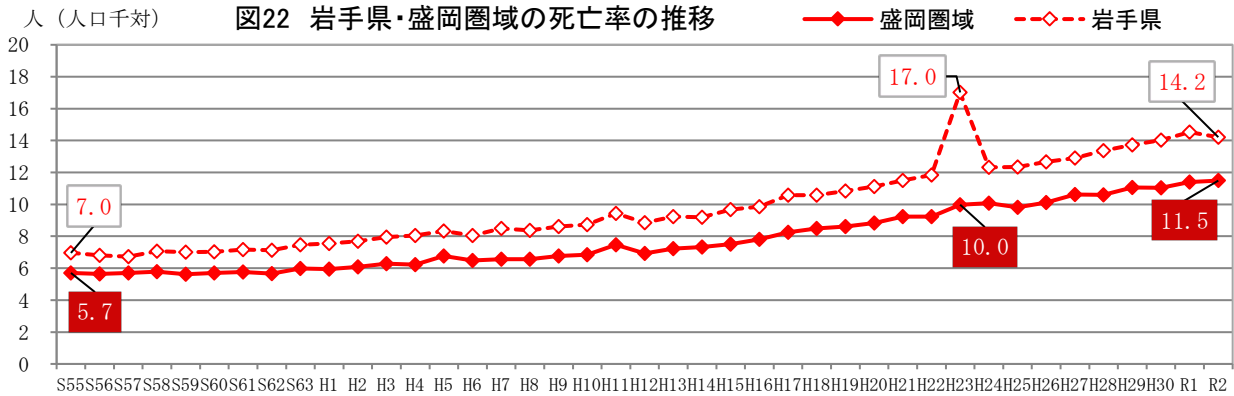


## IV 死亡の推移

### 1 死亡率の推移

盛岡圏域の死亡数が増加していることは前述のとおりです(図2)が、人口千人当たりの死亡率も、昭和55年の5.7から令和2年には11.5と上昇しています。しかし、盛岡圏域は岩手県全体より低く推移しています(図22)。

なお、岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。



### 2 年齢調整死亡率の推移

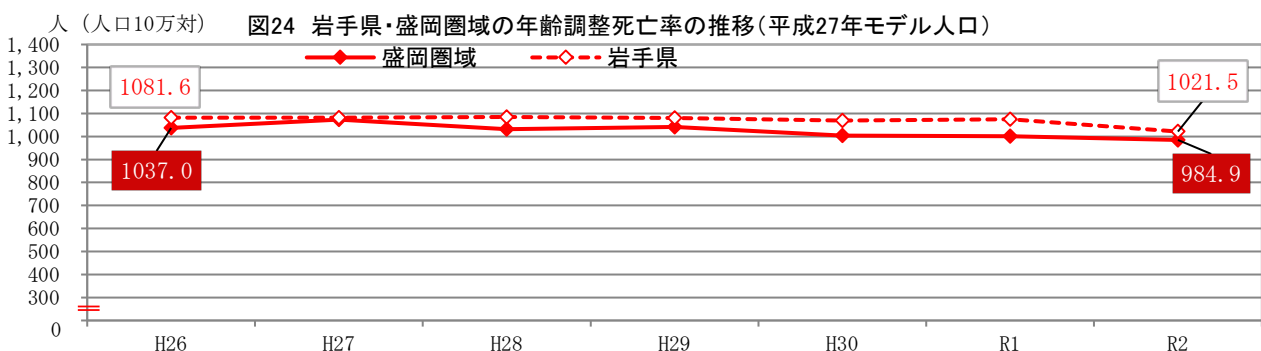
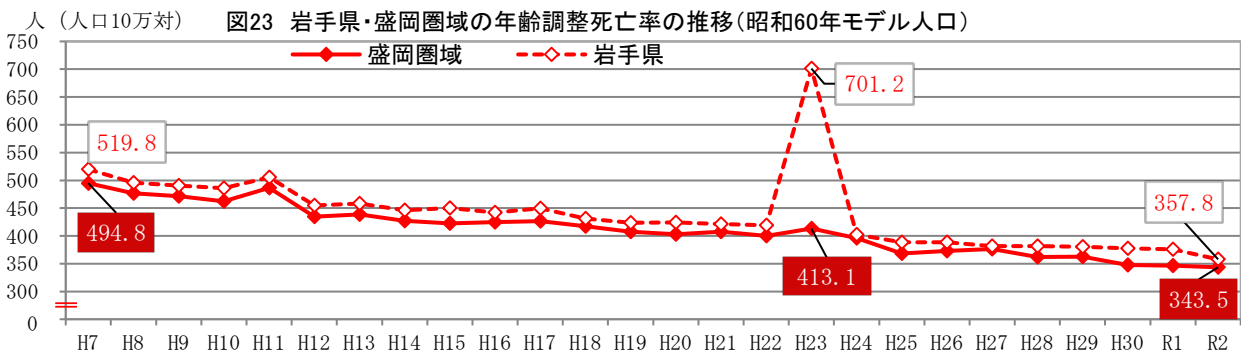
(図23)の人口10万人当たりの年齢調整死亡率<sup>※</sup>で見ると、盛岡圏域は平成7年の494.8から、令和2年は343.5と低下傾向にあります。岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。

なお、(図23)(図24)を見ると、盛岡圏域は岩手県全体より低く推移しています

※年齢調整死亡率:年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率(人口10万人当たり)です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。

なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間(平成26年～令和5年)分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。

岩手県の年齢調整死亡率は不詳人口を按分して算出、盛岡圏域は不詳人口を除いて算出しています。

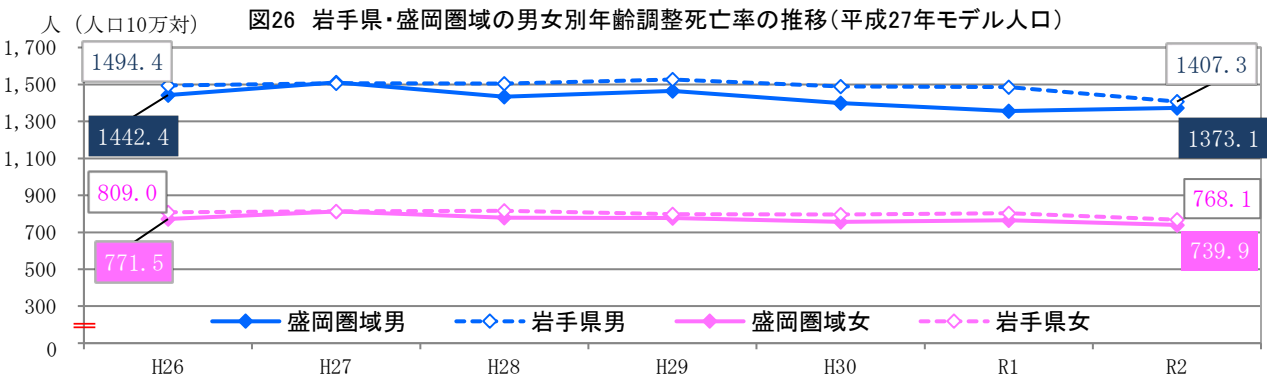
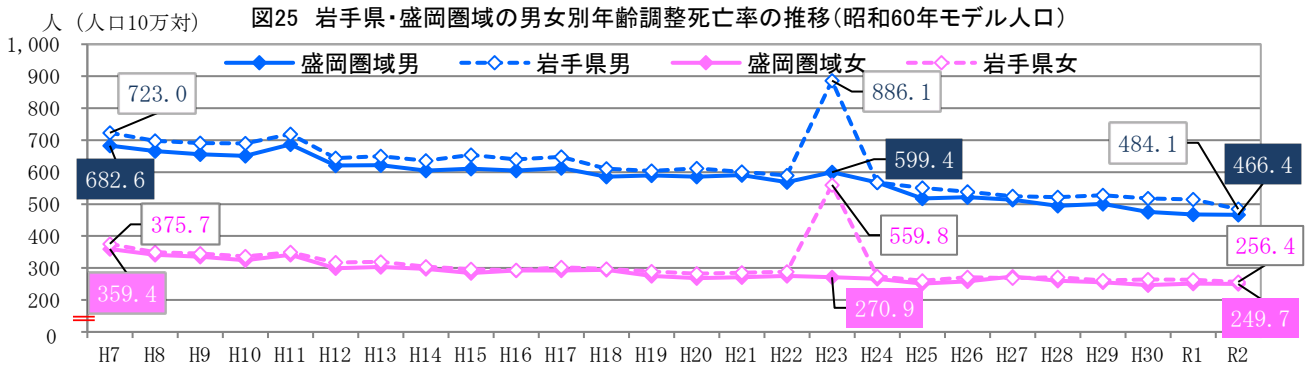


### 3 男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で(図25)(図26)に示します。

(図25)を見ると、盛岡圏域の男性は、平成7年の682.6から令和2年は466.4にまで低下しています。女性は、平成7年の359.4から令和2年は249.7にまで低下して推移していることがわかります。

なお、(図25)(図26)を見ると、盛岡圏域は岩手県全体より低い状況で推移しています。男性は女性の約2倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。



### 4 年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、岩手県・盛岡圏域の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
		年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1	
	盛岡圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	肺炎	
	年齢調整死亡率	154.7	58.3	50.5	26.6	18.1		
女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
	年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3		
盛岡圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺		
年齢調整死亡率	93.4	33.7	20.0	14.4	12.0			

区分(平成27年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8	
	盛岡圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
	年齢調整死亡率	415.4	191.5	138.2	79.9	68.2		
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
		年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6	
盛岡圏域	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎		
年齢調整死亡率	211.0	123.8	74.6	66.9	26.6			

<参考> 令和2年死因別死亡数順位

岩手県・盛岡圏域の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と盛岡圏域で比較すると、男性は第1位「悪性新生物」から第5位「老衰」まで同じ順位となっており、女性も第1位「悪性新生物」から第5位「肺炎」まで同じ順位となっています。

区分			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			死亡数	2,562	1,254	889	487	428
		盛岡圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			死亡数	848	361	274	142	107
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381
	盛岡圏域	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		死亡数	646	467	338	247	109	

5 悪性新生物の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図27)(図28)に示します。

(図27)を見ると、盛岡圏域では、男性は平成7年以降、概ね低下傾向にあります。岩手県全体との比較では、過去10年間を見ると、平成23年、24年、26年、30年、令和2年は、岩手県より高くなっています。女性は岩手県全体・盛岡圏域とも平成7年から横ばいで推移し、平成20年に最も低くなりました。平成21年以降は緩やかな上昇と低下を繰り返しています。令和2年は93.4と岩手県全体より高く推移しています。

(図28)を見ると、盛岡圏域は年ごとの変動はあるものの、男女ともに概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。

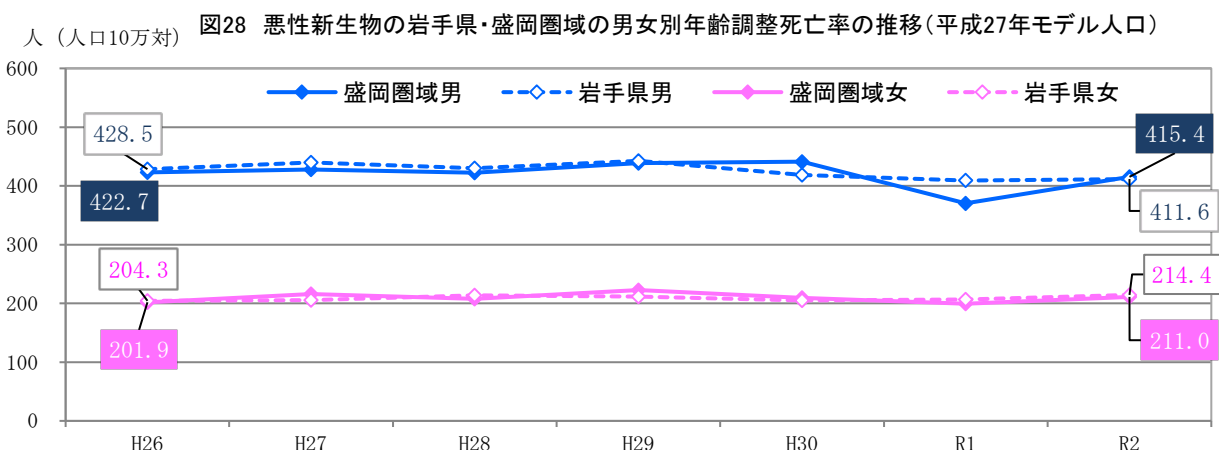
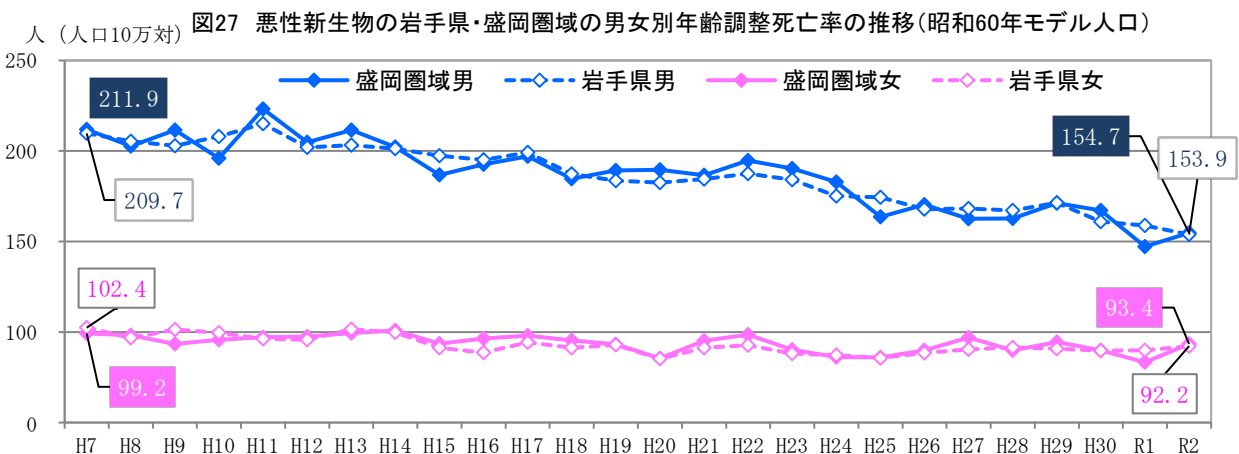


表1 悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の岩手県・盛岡圏域の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	
令和2年	男性	岩手県	死因 肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6
	盛岡圏域	死因 肺	大腸	胃	
		年齢調整死亡率	35.8	24.7	17.4
女性	岩手県	死因 大腸	乳	肺	
		年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4
	盛岡圏域	死因 大腸	乳	肺	
		年齢調整死亡率	15.5	14.3	9.3
区分(平成27年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	
令和2年	男性	岩手県	死因 肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2
	盛岡圏域	死因 肺	大腸	胃	
		年齢調整死亡率	90.4	65.2	45.6
女性	岩手県	死因 大腸	肺	乳	
		年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1
	盛岡圏域	死因 大腸	肺	乳	
		年齢調整死亡率	40.0	26.6	23.8

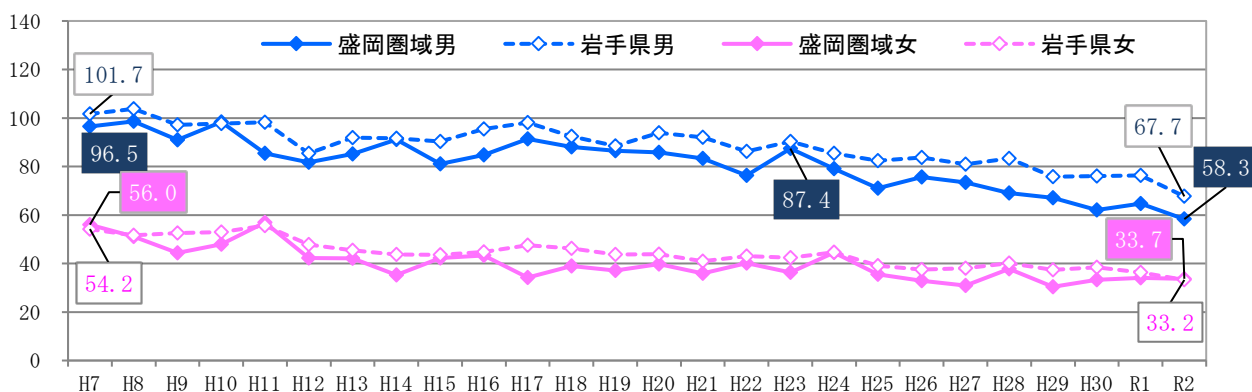
### 6 心疾患の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、岩手県全体・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図29)(図30)に示します。

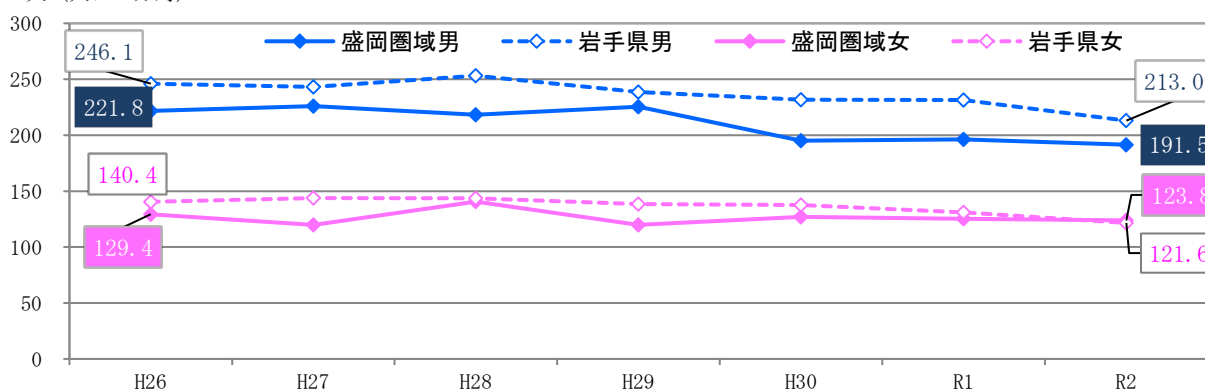
(図29)を見ると、盛岡圏域では、男性は平成11年以降増減を繰り返しながら緩やかに低下傾向を示していましたが、平成23年に87.4と前年より急な上昇がみられました。翌年からは岩手県全体より低く推移しており、令和2年は58.3となっています。女性も男性と同様に緩やかな低下傾向を示していますが、令和2年は33.7と岩手県全体よりやや高く推移しています。

(図30)を見ると、盛岡圏域は男女ともに概ね岩手県全体よりやや低く推移しています。

人(人口10万対) 図29 心疾患の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(昭和60年モデル人口)



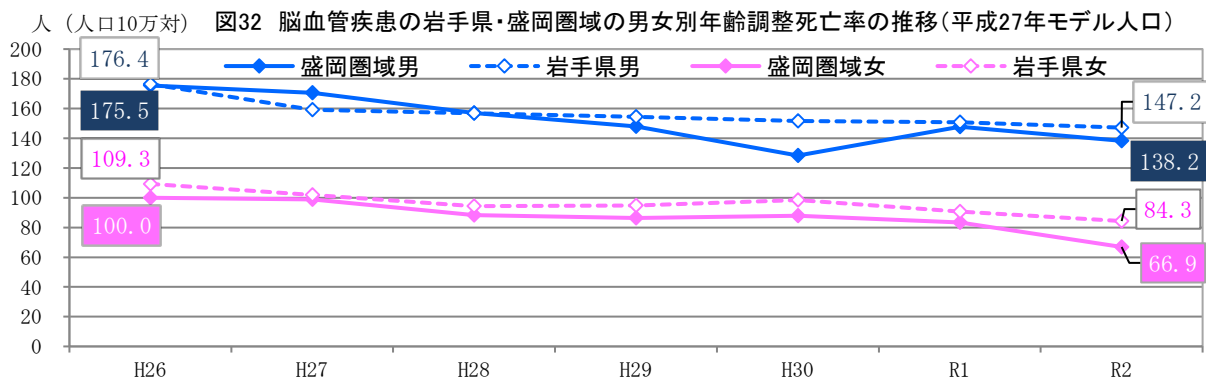
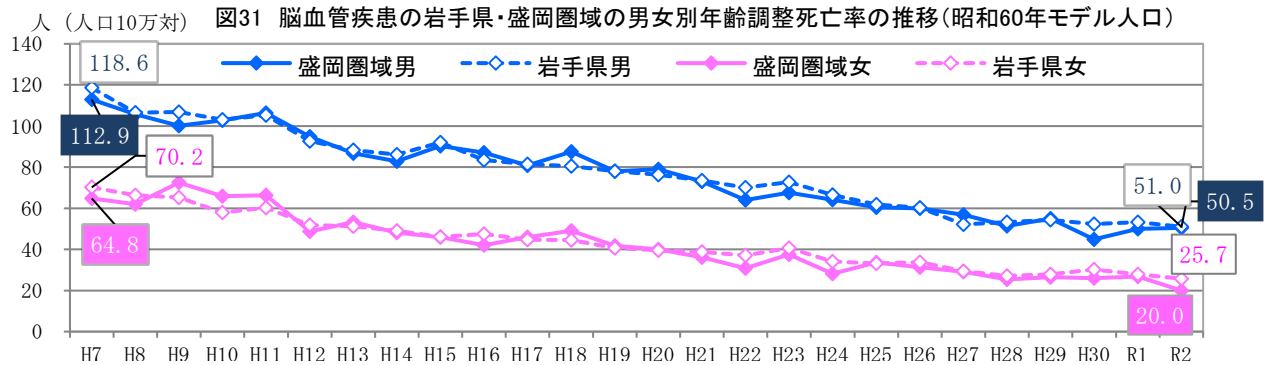
人(人口10万対) 図30 心疾患の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(平成27年モデル人口)



## 7 脳血管疾患の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「脳血管疾患」について、岩手県全体・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図31)(図32)に示します。  
 (図31)を見ると、盛岡圏域は、男性は平成7年から低下傾向にあり、令和2年は50.5と岩手県全体より低く推移しています。女性は、平成9年から11年を除き、平成7年から緩やかな低下傾向にあり、令和2年は20.0と岩手県全体より低く推移しています。

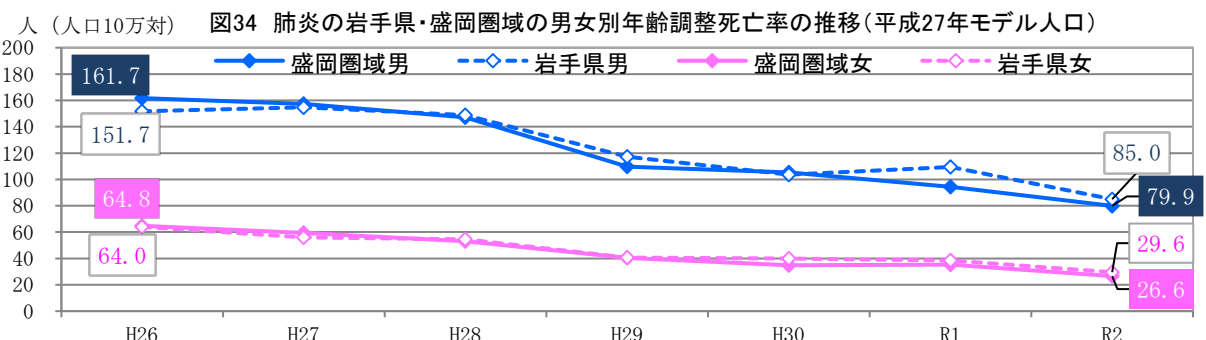
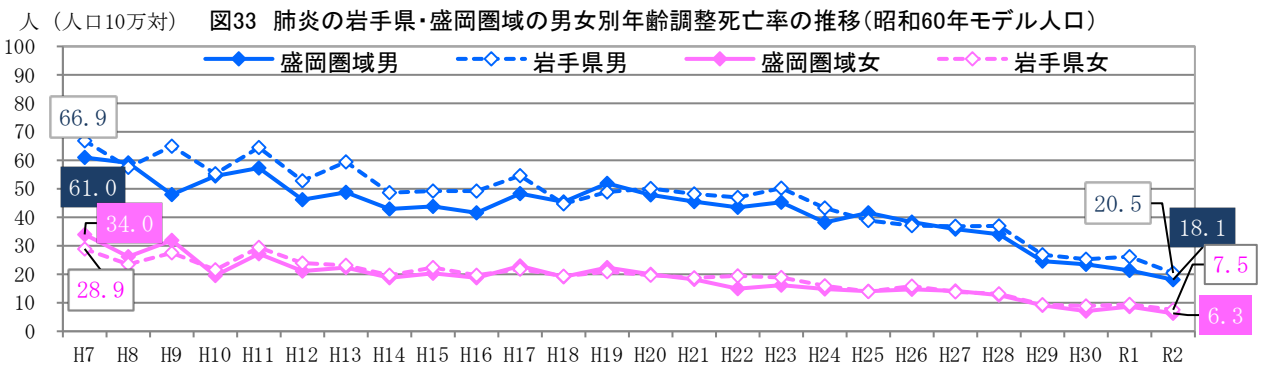
(図32)を見ると、盛岡圏域は男女ともに概ね岩手県全体よりやや低く推移しています。



## 8 肺炎の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、岩手県全体・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図33)(図34)に示します。  
 (図33)を見ると、盛岡圏域では、男性は平成7年から低下傾向でしたが、平成17年から19年に上昇し、平成20年からは再び低下傾向となっています。総じて岩手県全体より低い死亡率で推移していますが、過去10年間で平成19年、25年、26年は岩手県全体より高い状況です。令和2年は18.1と岩手県全体より低く推移しています。女性は、平成7年から低下傾向にあり、ほぼ岩手県全体に近い死亡率で推移しています。令和2年は6.3と岩手県全体より低く推移しています。

(図34)を見ると、盛岡圏域は年ごとの変動はあるものの、男女ともに概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。



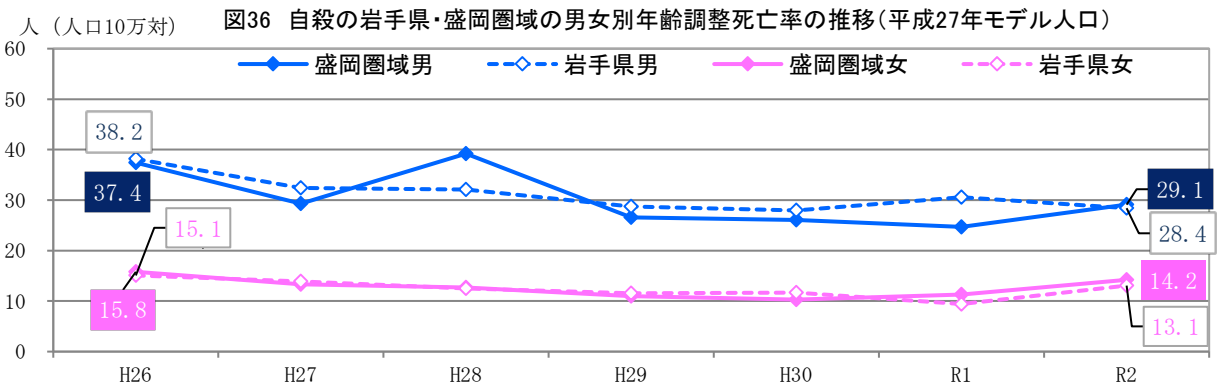
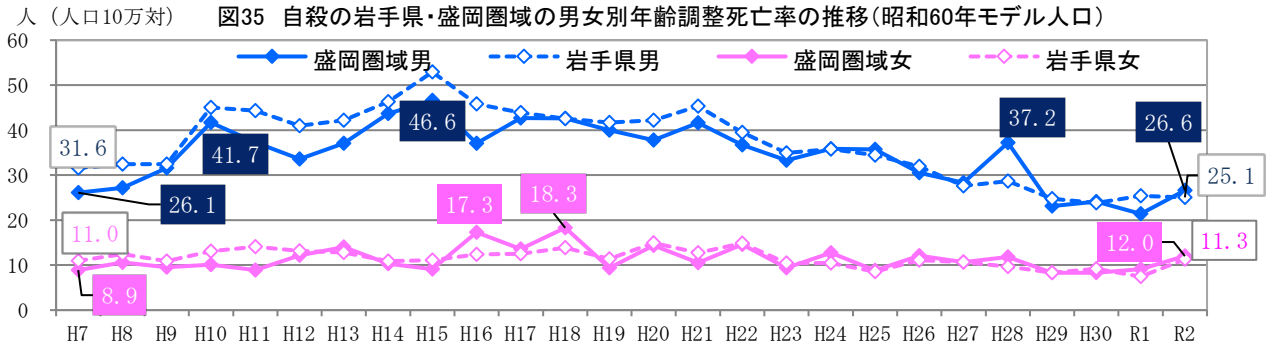


## 9 自殺の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、岩手県全体・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図35)(図36)に示します。

(図35)を見ると、盛岡圏域では、男性は平成7年26.1から上昇傾向となり、平成10年と15年に大きな山を形成しています。平成16年以降増減を繰り返しながら低下傾向となっていました。平成28年に急な上昇を示しました。令和2年は26.6と岩手県全体より高く推移しています。女性は平成7年から平成15年まで横ばいでしたが、平成16年に急激な上昇がみられ、平成18年には18.3と最も高い死亡率となっています。平成19年以降は上昇と低下を繰り返しながら横ばいで推移しています。令和2年は12.0と岩手県全体より高く推移しています。

(図36)を見ると、盛岡圏域では、男性は平成28年にやや大きく上昇し、翌年からは岩手県全体より低く推移しましたが、令和2年はやや高く推移しています。女性は概ね岩手県全体と同様の傾向を示しているものの、令和2年はやや高く推移しています。



## 10 老衰の岩手県・盛岡圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、岩手県・盛岡圏域の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図37)(図38)に示します。

(図37)を見ると、男女とも岩手県の値とは大きな差がなく経過しています。ほとんどの年で、男性より女性の方が高値となっています。また県全体の数値より低く経過している点は、盛岡圏域の老年人口割合の小ささが関連していると考えられます。令和2年は、男性が10.3、女性が14.4と岩手県全体より低く推移しています。

(図38)を見ると、盛岡圏域は男女ともに概ね岩手県全体よりやや低く推移しています。

